

KSKS

No. 140

25. 12. 28

ゆいゆい通信



編集人 社会福祉法人 寧楽ゆいの会
〒631-0823 奈良市西大寺国見町3-5-5
TEL/FAX 0742-41-6039
URL <http://narayuinokai.or.jp>

定価 1部50円
年間 300円

- ◆法人からの報告
「年末に寄せて」
理事長 庄野 千恵子 … 1
- ◆Reports
◇きょうされん全国大会 … 2
◇奈良市障害者虐待防止研修
◇ヘリコプターの会 … 3

- ◆Reports
さわやぎ/きらく舎 … 4
こもれび就労
後援会会計報告 … 5
第35回こころの講演会案内 … 6
- ◆Thanks
寄付のお礼
後援会費納入者 … 6

2025年 あんなことこんなこと 年末に寄せて

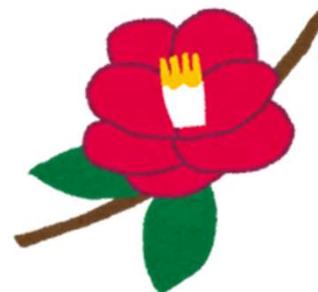
長い長い夏と短い秋が過ぎて、あっという間に師走になってしまいました。

事業は年度の4分の3が終わり、年明けからそれぞれの事業所で振り返り作業と次年度事業を検討します。法人として今年対応した幾つかの出来事がありました。

昨年度末に県の委託事業であった精神・発達障害者雇用企業サポート事業の終了が突然判明し、驚きと同時に委託事業の難しさを経験しました。同時期に委託相談支援事業に対する課税問題もありました。国は「社会福祉事業には該当しない」ことを理由として、委託相談支援事業は消費税の課税対象であるとしました。きょうされんが委託相談支援事業所に実態調査や情報交換などしており、そうした情報収集をしつつも、国の説明には釈然としないものが残りました。今年度は評議員・役員との同時改選がありました。評議員は全員が留任、理事も1名交代した他は留任となり、これから2~4年の任期で法人運営に当たることになりました。事業ではさわやぎの補修・改修工事として、外塀の防水補修工事から始まりました(4面参照)。改修はきらく舎とさわやぎが同一の建物で活動するための工事です。利

要者のニーズの異なる事業所の統合は、難しさもある一方で、それぞれの特性により幅広く利用者を受け入れられることや、利用者間の交流において、何らかの影響はあると思われます。良いことばかりではなく課題も生じるでしょうが、利用者の皆さんと職員と一緒に新たな事業所を作っていけるように後押ししたいと思います。

(庄野千恵子)



【法人の動き】

- ・10月22日 運営協議会を開催しました。地域家族会の方や地域の生活支援コーディネータの方と法人の事業活動について意見交換しました
- ・11月25日からさわやぎの補修・改修工事I期分が始まりました
- ・9月理事会で承認された内規改正(Web会議・研修の扱い、定年時手続き)を職員に周知しました
- ・実態調査WTが次年度調査に向けてテーマや調査項目の検討を開始しています

きょうされん全国大会in奈良

『はじめよう戦後80年から 咲かせようまんまの笑顔を～みんなのチカラ 奈良の地から』を大会スローガンにきょうされん第48回全国大会in奈良が10月17日、18日の2日間で開催されました。会場の奈良県コンベンションセンターに全国からのべ2200人(うち障がい者737人)とボランティア300人が集まりました。

大会1日目は基調報告の後、特別シンポジウムとして「被爆80年 障害のある人と戦争を考える～人権と平和が花ひらく未来をひきよせるために～」をテーマに、日本原水爆被害者団体協議会事務局長濱住治郎さんの講演がありました。

2日目は「働く」「暮らし・居住」「相談・支援」「政策・運動」「国際交流」「精神障害」「重度・重複」「地域・人づくり」など多岐にわたるテーマで14の分科会が設置されました。利用者フォーラムでは天理大学のダンスや雅楽体験、観光企画では法隆寺やキトラ古墳めぐりがありました。

きょうされん(旧称:共同作業所全国連絡会)は、障がいのある人たちのための働く場(共同作業所)の全国組織として1977年に結成され、現在では就労支援事業所、グループホーム、相談支援事業所など、障がいのある人の生活に関わる多様な事業所が加盟する全国組織です。障がい者福祉の充実と発展を目指し、国や行政への政策提言、地域づくり、会員間の交流や学習活動などを幅広く行なっています。きょうされんは事業所ごとの加入で、奈良では21事業所、寧楽ゆいの会からは「さわやぎ」が加盟しています。

当日は「さわやぎ」と「ぽすと」が店舗販売で参加。「地域活動支援センター・相談支援事業所こもれび」の泉水宏仁さんが「相談・支援」の分科会で「コミュニティにおけるネットワークの構築と制度政策へのアクションの実際 一天理市での福祉医療(医療費助成制度)の実現に向けた運動から」の報告をしました。他の職員も販売や大会運営にボランティアで参加しました。

大会事務局長を務めた佐藤恵美さん(社会福祉法人萌)に、奈良で初めての全国大会を行なった意義について聞きました。

◆奈良開催に至る経過

「奈良でやりたいです」。2023年の秋、事務局長の発言から奈良大会開催へ動き出した。2024年4月29日、支部総会で正式に決まり、5月のきょうされん全国総会で第48回大会は奈良大会と正式に認められた。

当時、奈良支部加盟事業所の職員の「視野」が



◀閉会式では次回大阪大会への引継ぎ式も

せまくなっている現状があった。どの事業所も人手不足なうえ、仕事が増え、外に目が向かない。署名活動をする余裕もなくなっていた。「何となく全体的にしぼんでいるよね」。大会をやるのが奈良での障がい者運動のためになるのではないかと考えた。

◆苦勞したこと

全国大会に行ったことのない支部メンバーもいる。メンバーで県コンベンションセンターの下見をしたが会場費の見積りは800万円近くと高額。「ほんまにできるのかなー」。協賛金を呼びかけようとなったが、加盟事業所が少なく、企業回りに人手を割けないうえに企業回りの経験もない。人手不足に経験不足。「こんなんできるんか」。何回も協賛金を出してくれた他府県の支部も。最後に火がつき、目標額を達成。

奈良大会のウリは一つの会場で全部の催しができること。おかげで分科会の後、1000人以上が残って閉会式に参加された。これはめずらしいこと。

◆意義

コロナ禍以前のイベントなどを経験したことがない若い世代の当事者、職員と一緒にイベントを開催、参加、経験することができた。全国大会を通して他の事業所との連携を広がったり、これまで関わりがなかった人から協賛・協力をいただき、関係もできた。県や市の職員も実行委員会にオブザーバーとして参加し、ボランティア説明会では障がい理解のミニ講座をしてくれた。参加者の車の乗降に市役所ロータリーを使わせてくれたり、大型バスが平城旧跡駐車場を利用できるような協力もあった。経験の蓄積ができ奈良での大会を行政とともに作り出した。(馬出元司)

Reports

虐待の芽は改善のきっかけ 奈良市障がい者虐待防止研修会

奈良市の障がい者虐待防止研修会が10月24日に奈良市総合福祉センターで、平野貴久さんを講師に行なわれました。平野さんは、高槻市や大阪市で重度知的障がいや強度行動障がいの人の入所施設やグループホームなどを運営している社会福祉法人北摂杉の子会の常務理事です。障がい福祉関係事業所の職員ら約60人が参加しました。

研修では、2012年に施行された障害者虐待防止法の説明のほか、全ての国民に虐待疑いの段階から義務付けられている“通報”のメリットや、支援者のケアの必要性について話されました。

通報は虐待を受けた人だけでなく、虐待をした職員やその施設の責任者、施設、運営法人も救うことになると言います。職員自身や施設内での支援についての気付きや、組織課題を見直す機会になることで改善につながり、早期なら処分も最小限に留められるからです。

北摂杉の子会では、2カ月に1回権利擁護虐待防止委員会を開いており、事業所で立てている権利擁護虐待防止計画の進捗を確認し、「ちょっと不適切かも」と思ったグレーゾーンの事例を各事業所

から出して話し合います。オンラインで行なうため、希望する職員は誰でも傍聴できます。グレーの段階で立ち止まって考えることで、より良い支援への気付きになります。平野さんは、一番の虐待防止は支援を良くすることだと言います。利用者が落ち着いて、笑顔であれば職員の負担は減り、離職者も減ります。虐待してやろうと思って福祉に従事する職員はいないし、職員を困らせてやろうと思ってサービス利用を始める利用者もいません。

身体拘束についても触れられ、直接拘束しなくても、薬によって本人の動きや状態を変化させてしまう“ドラッグロック”、「ダメ」「待って」などの言葉による“スピーチロック”もあります。薬の調整を考える際にはふだんとの違いや変化をきちんと医師に伝えること、禁止の言葉は漫然と使わず、どのくらい待つのかを伝えたり、言いつばなしにしないことに気を付けなければなりません。

「虐待通報」というと過激な印象ですが、虐待かどうかを判定するのは行政の役割です。自身や組織を振り返る意味でも虐待の芽への意識を高め、「ちょっと不適切かも」を話し合える職場環境が望まれます。

(江端いづ穂)



講師の平野貴久さん

「思いつき」の交換で もっと住みやすく!

ヘリコプターの会 奈良市伏見地域



奈良市伏見包括圏域で地域福祉に関わる様々な専門機関が参加し、自由に思いを語ったり情報共有する「ヘリコプターの会」が、4年前から開かれています。二名包括圏域で先に始まっていた「二名ネットワーク」が刺激になり、伏見包括圏域でも2021年11月に生活介護事業所りべるてで月1回の集まりが始まりました。目的は地域の多職種専門職が連携して、より豊かで住みよい地域づくりに貢献することです。

形ができあがり情報共有ができてきた頃、「強い目的を持った活動をしては」「二名のように勉強会や事例検討をしたほうがいいのか」という声が出てきました。話し合いの結果、「それはせず、『無責任さ』を大切にしよう」ということになりました。これには「思いつき」「うまく説明できないこと」「『妄想』を自由に出し合うこと」を大切に、そこからエネルギーを得たり、新しい発想が出てきたりすること

を狙って、「こうなったらいいね」「こんなことができるんじゃないか」という実際の動きを作っていく下地になる場にしたい、という意図があります。実際に何かの形にしていく時には専門職として取り組みます。

現在は相談支援や就労系事業所、医療機関、ひきこもりの若者支援機関など、24の「守秘義務を持つ専門職」で構成されています。毎月のZOOMの集まりに、さわやぎも時々参加しています。ご近所のいろんな専門職の人と知り合えて、気軽に質問ができ、したいことがどんどん思いつきます。

会の名前の由来は設立の4月15日が「ヘリコプターの日」だったことですが、後付けで「ホバリングで様子を見て立ち去ってもいいし、着陸して散策してもいいし、誰かを乗せて一緒にどこかに行ってもいい。ヘリコプターのように自由に参加できる会。そんなネットワーク会議を伏見圏域に作っていきたい……」という意味もあります。(六十谷尚美)